

小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化プロジェクト代表者:高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

小樽・後志地域の発展に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域観光資源化を推進し、小樽と後志地域をつなぐ新たな広域連携・観光ルートを開発を目指します。本年度は特に、後志地域での調査、後志および札幌圏への情報発信に力を入れました。

2. 具体的な取組内容

●調査研究（平成28年5月～11月）

- ①北前船から北洋漁業への転換期に関する資料を発見しました（択捉島水産会関連写真）。北海道と北前船の関係を示す貴重な資料と評価され、新聞等で紹介されました。
- ②これまで知られていなかった小樽・後志地域での北前船のゆかりを多数確認しました。寿都や島牧に越前産「笏谷石」があること、神恵内の遭難者供養塔などを紹介しました。

●情報発信による地域観光資源化

- ①イベント「和と洋の祈り」では、能舞台を会場に、建材の佐渡神代杉などのゆかりを紹介し、北前船の積荷「着物」をテーマにショー・演奏会を実施しました。
- ②講演（小樽観光ワークショップ、岩内町公開講座等）では、研究成果を観光まちづくり関係事業や、後志の自治体主催の講演会で紹介し、幅広く情報発信を実施しました。
- ③イベント・ツアー「雪あかりの歴史浪漫」では、雪あかりの路期間中に、観光客や市民に北前船と小樽の関わりを紹介しました。札幌発のバスツアーを実施し、札幌圏の観光客に小樽へのヒストリーツアーの魅力を知っていただきました。
- ④パネル展「北前船と小樽・後志～歴史文化のルーツを訪ねて」ではJR小樽駅コンコースに展示パネル8枚を設置し、観光客や市民に研究成果をわかりやすく紹介しました。
- ⑤シンポジウム「北前船と小樽・後志～歴史的価値と観光資源化を考える」は、小樽・後志を対象に、歴史的価値と観光資源化の両面を検討する史上初の北前船シンポジウムとしてこれまでの成果を紹介しました。参加者は231人となり大きな反響がありました。



左:「和と洋の祈り」(9/10)
中:「雪あかりの歴史浪漫」(2/11)
右:「北前船と小樽・後志」(3/4)

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

以上の取り組みにより、小樽・後志の北前船の歴史的価値の調査研究、観光資源化は大きく進展したと言えますが、イベントなど一過性の話題に留まらないため、成果をまとめた冊子を図書館や関係機関に寄贈し、デジタル・アーカイブに登録するなど、持続する取り組みを実施しました。また、北前船関連の全国学会、各地の地域振興事業などに情報提供を行い、本学の地域志向型教育プログラムで成果を還元しました。